

《巻頭言》

『金沢星稜大学人文学研究』の創刊に寄せて

金沢星稜大学学会人文学部会 部会長 川村 義治

金沢星稜大学では、平成28年度から第3番目の学部として人文学部が設置されました。それに伴い、人文学部と教養教育部に所属する教員の発意と努力により、日頃の研究成果を発表する機会として、『金沢星稜大学人文学研究』と名付けた学術誌を創刊することといたしました。これまでの各先生方のご理解とご協力に感謝いたします。特に、創刊に際して何度も話し合いを重ね、知恵を出し合い、原案作成や関係先との交渉に労を惜しまれなかった編集委員の方々に深い謝意を表します。

20世紀は科学やテクノロジーが驚異的に発展し、物と情報が押し寄せ、人々の生活が加速的に変化し続けました。その結果、人々は豊かさを享受しましたが、人間の存在そのものの限界と終末さえ予感させるような出来事も多々ありました。21世紀が始まって十数年、このような時代であるからこそ、私たちは日々の暮らし方を振り返り、心の中を見つめ直すことが求められていると考えます。そこで、私たちは、内省的な精神活動と実地に経験して得た知見を発表して批評し合い、知恵を共有する場として、新たな紀要を立ち上げることに至りました。

本紀要は、金沢星稜大学における新たな学術誌として、大学の人文学とその周辺領域の研究と教育の発展、ならびにそれらを取り巻く教養に関わる領域に貢献していくことを使命といたします。人文学とは人間の営みにより生まれた文化全般を対象として、人間を中心に据えて世界を考察する学問です。したがって、『金沢星稜大学人文学研究』は人間の性質や振る舞い、思考や言語、日々の生活や思想、慣習や歴史などに関する研究や発見を積極的に取り上げます。また、従来の論文や報告のほか、対談形式による多彩な交流や学生の発表などを掲載して、多様な視点と方法から人間性や人間の営みを洞察していく所存です。

最後に、本紀要は自由に考えを表明できる場をめざしますので、執筆者にはより一層の倫理的自覚と謙虚さを求めることとなります。研究対象に対して、研究に関わる人々に対して、研究結果に対して、謙虚に向き合い、相手を尊重し、自己の研鑽に努めることをお願いしたいと思います。どのような研究や教育活動にも成果と課題があります。言うまでもなく、研究者は絶えず研究の精緻と方法の熟達を求めて地道な活動の繰り返しを求められますが、そこに研究者としての責任と矜持があります。それゆえ、ささやかではありますが『金沢星稜大学人文学研究』がそのような研究者を支援し、研究者同士をつないでいく機会になることを強く望んで創刊に寄せる言葉といたします。

